

市民提案型ごみ減量活動等補助金の審査方法

1. はじめに

当補助金は、市内における市民の主体的なごみ減量等の実践活動を活発にするため、支援する制度です。

審査に当たっては、提案事業を批判に採点していただくのではなく、申請団体の熱意をくみ取り、より良い事業に発展させる視点を第一として、採点をお願いいたします。

2. 審査の区分

各部門の審査

① 先進的ごみ減量モデル部門（4 団体）

申請書類（資料 3）に基づいて審査の実施をお願いします。

② 地域内ごみ減量等活動部門（1 団体）

申請書類（資料 3）に基づいて審査の実施をお願いします。

③ 地域型ふれあい収集部門

現時点で申請はありません。 ⇒ 説明は省略させていただきます。

3. 審査の方法

（1）全体の流れ

審査は、絶対評価を基本とします。（相対評価ではありません。）

補助金の部門ごとに、各部門の目的に応じた評価項目を設定し、審査員（部会員）が感じた印象をもとに、各項目を 5 段階又は 3 段階で評価して点数化（100 点満点）します。

具体的には、各審査員が審査表を作成し、各項目を点数化することで申請案件ごとの合計得点を算出します。

最終的に、全ての審査員が出した合計得点を集計し、審査員の人数で除した平均値をもって、当該申請案件に対する当部会（審議会）の評価とします。

(2) 評価項目と配点

部門ごとの評価項目と各項目の配点は、表1のとおりとします。

なお、「審査員の総合評価」は、既設の評価項目以外の視点も含め、各審査員独自の基準により5段階評価を実施してください。ただし、部門ごとにある程度統一された基準や価値観で評価するように心がけてください。

【表1】

先進的ごみ減量モデル		
評価項目	評価方法	配点
事業の先進性	5段階	20
事業の独自性	5段階	20
事業の広がり（地理的な広がり）	3段階	10
事業の広がり（人的な広がり）	3段階	10
事業の実現性（実施主体）	3段階	10
事業の実現性（事業手法）	3段階	10
審査員の総合評価	5段階	20
合 計		100

地域内ごみ減量等活動		
評価項目	評価方法	配点
事業の実現性（実施主体）	3段階	10
事業の実現性（事業手法）	3段階	10
事業の継続性（実施体制）	3段階	10
事業の継続性（活動経費）	3段階	10
減量等の効果	5段階	20
住民の主体性	5段階	20
審査員の総合評価	5段階	20
合 計		100

4. 審査結果の取扱い

審査結果は、別記様式 1 により、申請案件の評価（合計得点の平均値）をもとに 3 種類又は 2 種類に区分して市へ報告します。

市が交付を決定する際に付すべき条件があれば、付記することとします。

【表 2】

「先進的ごみ減量モデル」		
審査区分	基 準	審査結果の意味
優先採択	80 点以上	必要額を交付すべきである。
採 択	50 点以上 80 点未満	上限額（30 万円）の範囲内で交付することが適当である。
不 採 択	50 点未満	交付することは適当でない。

「地域内ごみ減量等活動」		
審査区分	基 準	審査結果の意味
採 択	50 点以上	上限額（10 万円）の範囲内で交付することが適当である。
不 採 択	50 点未満	交付することは適当でない。

市民提案型ごみ減量活動等補助金 審査結果

1. 「先進的ごみ減量モデル部門」の審査結果

受付 番号	事業名	評価(得点)	審査区分	備考(意見等)
1	フードバンク事業			
2	食とモノの Re-born プロジェクト			
3	生ごみの堆肥化			
4	制服のアップサイクル			

2. 「地域内ごみ減量等活動部門」の審査結果

受付 番号	事業名	評価(得点)	審査区分	備考(意見等)
1	自分のために、未来のために 使い捨てない暮らし方 ～私たちができること～			

【審査区分の凡例】

「先進的ごみ減量モデル」		
審査区分	基 準	審査結果の意味
優先採択	80点以上	必要額を交付すべきである。
採 択	40点以上80点未満	上限額（30万円）の範囲内で交付することが適当である。
不 採 択	40点未満	交付することは適当でない。

「地域内ごみ減量等活動」		
審査区分	基 準	審査結果の意味
採 択	40点以上	上限額（10万円）の範囲内で交付することが適当である。
不 採 択	40点未満	交付することは適当でない。